2020年（令和2年）10月15日 木曜日　日刊木材新聞

11月に新型合板加工機稼働へ

自動積込み装置併設で省人化図る

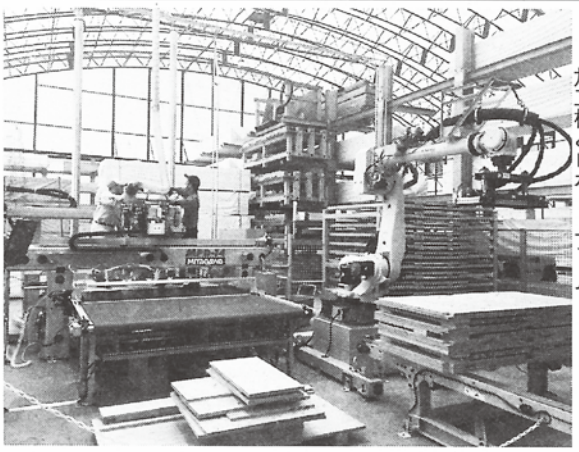
村上木材、プレテック

村上木材（大阪市、佐原謙次社長）は、11月からグループ会社でプレカット加工を行うプレテック（同、矢山勝司社長）の新型合板加工機（MPD－14、宮川工機）と自動積み込み装置（Robot R－2000iC、ファナック）各1基を本格稼働させる予定だ。同社では会社全体で働き方改革を進めるなか、プレカット加工事業でも省人化を図る目的で、合板加工機などを増設した。

今回の設備投資には、中小企業庁の「ものづくり補助金」を利用した。プレテックでは大阪工場が手狭のため、1号流通センターに合板加工機を集中設置している。今回の新型合板加工機も同センターに設置した。プレテックの合板加工機は、1基増えて3基となり、加工量も1・5倍になるが、合板加工にかかわる人員は2人体制のままで対応できる。また、新設備の合板加工機は、合板の長さが2㍍までと制限があるものの、隅々まで加工できるため、二度手間を防ぐほか、自動積み込み装置で加工済みの合板を積み込むなど人の手をほとんど必要としないのが特徴だ。

プレテックの大阪工場には、柱加工機（MP－34、宮川工機）や横架材加工機（MPUSU－8W、MPS－54、同）のほか、羽柄材加工機（MPC－13、同）や高速羽柄三次元切断機（MPC－25K）などが設備されている。現在は、2シフト24時間体制で、月間平均で約4000坪を加工している。

「今回の設備投資では、人員を増やさずに加工能力を増やすことで、残業や夜勤を減らしたい。そして、もっと省人化していきたいと思っている。主力の機械設備ではなく、サブ的なラインを導入することで調整していきたい」（同社）という。



プレテックに新しく設置された合板加工機とロボットアーム